

# 安曇野大会

## 研究授業に向けて

8月中旬より新型コロナウイルス感染警戒レベルが5になっており、大会の開催について全く見通しが持てない状況になっています。

しかし、豊科南小学校・中学校の研究メンバーは、研究授業に向けて、研究・実践を積み重ねています。7月30日は、安曇野市教育会の理科同好会の実技講習会の中で、両校の研究について紹介されました。

## 豊科南中学校の研究

中学3年『生命の連続性』

「遺伝の規則性と遺伝子」

「遺伝」の規則性は、直接目に見えない「遺伝子」が関係しているためにイメージを持たせることが難しい単元の一つになっています。「遺伝」の学習はメンデルの実験の教え込みになりがちであるところを、『遺伝子カード』を使ったモデル実験を行い、生徒が考え、有性生殖における遺伝の規則性を見だしていく学習のあり方を考えていきたいと思ひます。



生徒になったつもりで遺伝子カードを交換してみました。

## 豊科南小学校の研究

小学5年『生命のたん生（魚）』

安曇野市は日本のニジマス養殖発祥の地とも言われるほど、ニジマスの養殖が盛んに行われています。ニジマスは安曇野市の地域素材として価値があると考え、教材化しています。



クロームブックで卵の写真撮影。カメラ部分に工夫がされています。

